

市の令和元年度のごみ排出量は、2万2904トンで、そのうち家庭系ごみの排出量は1万6415トン、市民1人1日当たりに換算すると、約863グラムになります。昨年の台風19号による災害廃棄物処理費を除いたごみ処理費(収集、資源化、最終処分などの費用)は、約4億9958万円で、市民1人当たり約6408円の経費がかかります。ごみ処理に

市民1人当たりの
ごみ処理費は6408円

のペースでごみが増え続けると、2050年には海洋プラスチックごみが魚の重量を超えるという衝撃的な試算が報告されました。海洋プラスチックごみの多くは、ぼい捨てや不法投棄などで屋外に放置されたプラスチックごみが、雨や風によって川にたどり着き、海に流入したものです。およそ7割は陸で発生していると言われているため、海がない登米市でもプラスチックごみを出さない取り組みが求められます。

は、手数料やごみ袋、粗大ごみ処理券の売上金など(約1億4560万円)と資源ごみの売却代金など(約3156万円)に加え、税金(約3億2242万円)が使われています。クリーンセンターに搬入された可燃ごみのごみ質測定では「紙布類」が5割を超え、一番多く、プラスチックごみなどを含む「ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類」が約3割と続きます。

市では、ごみを減らすために「4R(フォー・アール)」に取り組んでいます。

4Rとは「Refuse(リフューズ)」「Reduce(リデュース)」「Reuse(リユース)」「Recycle(リサイクル)」のこと。これらを実践することで、プラスチックごみをできるだけ減らし、資源として有効に利用していくことができます。

日頃から、4Rを意識して、ごみ減量に取り組むことで、処理費用も削減することができます。

環境のためにみんなでできる

ごみを減らす 4 R 運動

1 **Refuse(リフューズ)**
いらぬものは断る

▶ 買い物のときはマイバッグ(袋、かごなど)を持参し、レジ袋はもらわないようにしましょう。

▶ 過剰包装は断り、簡易包装に協力しましょう。

2

2 **Reduce(リデュース)**
ごみを減らす

▶ 必要な物は、必要な量だけ買うようにしましょう。

▶ 詰め替え商品を利用しましょう。

3

3 **Reuse(リユース)**
繰り返し使い再利用する

▶ 物をすぐ捨てないで、修理などをして繰り返し使うようにしましょう。

▶ フリーマーケット、バザーなどを活用しましょう。

4 **Recycle(リサイクル)**
再資源化する

▶ 資源になる物は、分別ルールに従ってきちんと排出しましょう。

▶ 物を買うときは、再生紙を使った商品など再生品を選んで資源を大事にしましょう。



▲ごみが漂着した海岸
◀漁網にからまったウミガメ
(出典:環境省)

海洋プラスチックごみが海を埋め尽くす

既に世界の海に1億5千万トン存在し、少なくとも年間800万トンが、新たに流入しているといわれる海洋プラスチックごみ。実際にどのような問題を引き起こしているのでしょうか。

海洋プラスチックごみが引き起こす問題

海洋プラスチックごみが引き起こす問題の一つは、海の生物への影響です。魚や海鳥、クジラ、ウミガメなどの生物が、漂流するプラスチックごみを餌と間違えて食べたり、漁網に絡まったりして、傷つき、死んでしまったり、深刻な影響が生じています。

また、海岸に打ち上げられたごみによる景観の悪化や漁業道具の破損など、経済的な損失ももたらしています。

さらに、プラスチックごみは分解されず、多くが数

百年以上、海で漂い続けます。その間に波や紫外線などの影響を受け、やがて小さな粒になります。5ミリ以下の大きさになったプラスチックごみは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、有害物質が付着しやすい性質を持ちます。

既に海洋生態系に取り込まれている可能性が指摘されており、海の生物に悪影響を及ぼすだけでなく、人の健康も脅かすことが懸念されています。

海洋プラスチックごみの多くは陸で生まれる

2016年の世界経済フォーラムでは、このまま

レジ袋有料化は意識改革のきっかけ

Interview

日本で排出されるプラスチックごみのうち、レジ袋が占める割合は数%程度。レジ袋の減量が海洋プラスチックごみの減量に直結するとは言いがたいかもしれません。しかし、レジ袋の有料化は海洋プラスチックごみ問題に対して必要な取り組みです。それは、生活に深く浸透していたレジ袋の有料化をきっかけに、使い捨てプラスチックに頼った生活を変えていくところにあります。意識が変われば「もらえない」から「もらわない」が当たり前の世の中になるはず。そして、徐々にレジ袋に代表

されるような不必要な使い捨てプラスチックが減っていくことを期待しています。プラスチックごみ削減のためにすぐ実践できることは、ごみの分別。分別されず本来資源になり得るものが可燃ごみになると、地球温暖化の原因にもなります。昨年12月には環境に配慮した新クリーンセンターが稼働しました。施設が良くても、出すときに分別されていないと意味がありません。環境への理解をもって、正しいごみ出しを実践してほしいですね。



市公衆衛生組合連合会 会長
富士原 昶さん(83)